

4. ^{サットン} Sutton 母斑 Sutton nevus, halo nevus ★

同義語：Sutton 遠心性後天性白斑 (leukoderma acquisitum centrifugum Sutton), Sutton 白斑 (leukoderma Sutton)

定義・病因・症状

母斑細胞母斑（黒子）を中心に置いて、周囲に楕円形の白斑を生じたもの（図 16.7）。小児～青年の体幹や顔面、頸部に好発し、突然白斑が生じる。尋常性白斑を合併することもある。中心の黒子部に存在するメラニンに対する自己免疫が生じ、その免疫反応が周囲皮膚のメラニンに対しても起こるために白斑が生じると考えられている。まれに、悪性黒色腫、血管腫、青色母斑、神経線維腫、老人性疣贅などの周囲に白斑を生じる場合があり、これを Sutton 現象 (Sutton's phenomenon) という。

病理所見

母斑細胞やメラノサイトの変性、崩壊が認められ、その周囲にリンパ球とマクロファージの密な浸潤を認める。

治療・予後

白斑は遠心性に拡大し、それとともに中心の母斑は退色扁平化、ついには消失する。母斑が消失すると白斑も自然治癒する。中心の母斑を切除すると、白斑の治癒が促進されることが多い。

5. ^{フォークト} Vogt・小柳・原田病 Vogt-Koyanagi-Harada disease ★

同義語：Vogt・小柳・原田症候群 (Vogt-Koyanagi-Harada syndrome)

Essence

- メラノサイトに対する自己免疫によって発症。ぶどう膜、皮膚、内耳、髄膜に炎症を生じる。
- ぶどう膜炎や白毛、脱毛、白斑などを認める。
- 治療はステロイド内服。皮膚病変に対しては尋常性白斑に準じる。

症状

眼病変を中心に急性の経過をとるが、皮膚病変は回復期に移行した頃（発症後約2か月）に出現する（図 16.8）。メラノサイトが破壊された結果、90%の症例で眉毛や睫毛、毛髪などの白毛 (poliosis) を生じ、ときに脱毛も認める。また、不規



図 16.7 Sutton 母斑 (Sutton nevus, halo nevus) 母斑細胞母斑の周囲に境界明瞭な白斑を認める。

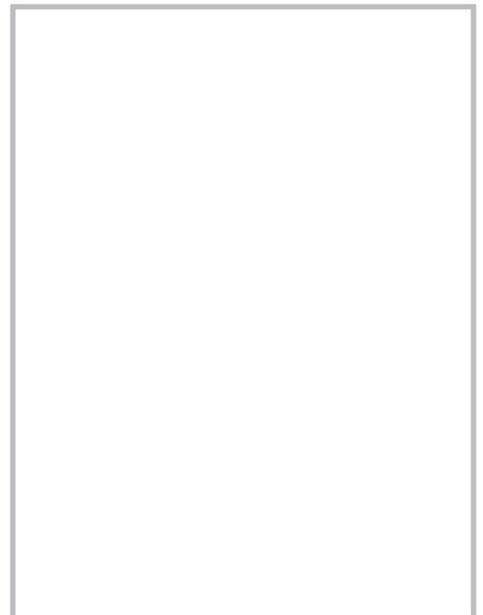


図 16.8① Vogt・小柳・原田病 (Vogt-Koyanagi-Harada disease) 不規則な形の白斑が散在。